

# 議題 3

令和元年11月13日  
 学校教育部指導第一課  
 学校教育部指導第二課

## 平成31年度全国学力・学習状況調査の結果について（報告）

### 1 調査の概要

#### (1) 調査の趣旨

- ① 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力や学習状況をきめ細かく把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 各教育委員会、学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③ 各学校が、各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てる。

#### (2) 調査対象

区分	調査実施校数（校）			調査実施者数（人）		
	国	県	市	国	県	市
小学校第6学年	19,496	467	142	1,028,203	24,006	10,647
中学校第3学年	10,022	241	64	938,888	20,889	8,848

（広島県・広島市は、国・広島県の内数である。）

#### (3) 調査期日

平成31年4月18日（木）

#### (4) 調査内容

##### ① 児童生徒に対する調査

##### ア 教科に関する調査

(ア) 対象教科 小学校第6学年：国語・算数 中学校第3学年：国語・数学・英語（新規実施）

##### ※ 平成30年度からの変更点

- a 中学校の調査に新たに英語を追加（3年に1回実施予定）
- b 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度より従来のA問題（知識・技能等）とB問題（活用等）という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題とする。
- c 調査時間について
  - 【小学校】
    - ・ 国語・算数とも45分で実施  
（昨年度までは、A問題20分、B問題40分 計60分で実施）
  - 【中学校】
    - ・ 国語・数学とも50分で実施  
（昨年度までは、A問題45分、B問題45分 計90分で実施）
    - ・ 英語については、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」に関する問題は45分、「話すこと」に関する問題は5分程度で実施

(イ) 出題範囲 調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

(ウ) 出題内容

- a 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- b 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(エ) 出題方法

国語及び算数・数学においては、記述式の問題を一定割合で導入する。

英語においては、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと」、「書くこと」に関する問題を出題し、記述式の問題を一定割合で導入するとともに、「話すこと」に関する問題の解答は、原則として口述式によるものとする。

イ 質問紙調査

- (ア) 対象 小学校第6学年及び中学校第3学年の児童生徒  
 (イ) 内容 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する事項

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

2 調査結果の概要

(1) 各教科の平均正答率

- ・平成29年度より、各都道府県教育委員会及び各指定都市の結果は整数で公表
- ・広島県の数値は、広島市を含む数値

【小学校】

(単位：%)

教科	国語						算数						理科			
	A問題			B問題			A問題			B問題						
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	
H28年度	72.9	78.4	77.2	57.8	60.5	60.1	77.6	79.7	79.1	47.2	49.5	49.4				
H29年度	74.8	77	76	57.5	61	60	78.6	81	79	45.9	47	46				
H30年度	70.7	73	72	54.7	59	58	63.5	66	64	51.5	54	54	60.3	63	62	
H31年度	国		県	市		国		県	市							
	63.8		66	63		66.6		68	68							

【中学校】

(単位：%)

教科	国語						数学						理科			
	A問題			B問題			A問題			B問題						
	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	国	県	市	
H28年度	75.6	76.6	76.1	66.5	67.9	67.0	62.2	62.1	61.0	44.1	44.8	43.2				
H29年度	77.4	78	77	72.2	73	72	64.6	64	63	48.1	48	48				
H30年度	76.1	76	76	61.2	61	60	66.1	66	65	46.9	46	46	66.1	66	65	
H31年度	国		県	市		国		県	市							
	72.8		74	73		59.8		60	59							

教科	英語		
類型	聞くこと、読むこと、書くこと		
	国	県	市
H31年度	56.0	56	56

- (2) 正答数の分布状況 (別紙1)  
 (3) 平成31年度(令和元年度)全国学力・学習状況調査 問題別調査結果 [数学] (別紙2)  
 (4) 課題の見られる問題の活用例 [数学] (別紙3)

3 特色ある学校の取組(亀山中学校)(別紙4)

4 質問紙調査の結果について(別紙5)

[児童生徒]

- (1) 学習意欲  
 (2) 自尊意識  
 (3) 思考力・表現力  
 (4) 学習習慣

[学校]

- (5) 指導方法

2 調査結果の概要  
 (2) 正答数の分布状況

本市 全国

別紙 1

教科	① 小学校 対象：第6学年 正答数の分布	特徴	教科	② 中学校 対象：第3学年 正答数の分布	特徴
国語		<ul style="list-style-type: none"> <li>○分布が右よりの山形であり、学習内容がおおむね定着していると見られる。</li> <li>●正答率 30%未満の児童の割合は全国平均より 0.3 ポイント高い。</li> <li>○正答率 60%以上の児童の割合は全国平均より 0.4 ポイント高い。</li> </ul>	国語		<ul style="list-style-type: none"> <li>○分布が右よりの山形であり、学習内容はおおむね定着していると見られる。</li> <li>○正答率 30%未満の生徒の割合は全国平均より 0.6 ポイント低い。</li> <li>○正答率 60%以上の生徒の割合は全国平均より 0.6 ポイント高い。</li> </ul>
算数		<ul style="list-style-type: none"> <li>○分布が右よりの山形であり、学習内容はおおむね定着していると見られる。</li> <li>○正答率 30%未満の児童の割合は全国平均より 0.4 ポイント低い。</li> <li>○正答率 60%以上の児童の割合は全国平均より 2.1 ポイント高い。</li> </ul>	数学		<ul style="list-style-type: none"> <li>●分布がやや右よりのなだらかな山形であり、学習内容の定着に課題がある。</li> <li>●正答率 30%未満の生徒の割合は全国平均より 0.9 ポイント高い。</li> <li>●正答率 60%以上の生徒の割合は全国平均より 0.5 ポイント低い。</li> </ul>
英語			英語		<ul style="list-style-type: none"> <li>●分布が中央によったなだらかな山形であり、学習内容の定着に課題がある。</li> <li>○正答率 30%未満の生徒の割合は全国平均より 0.3 ポイント低い。</li> <li>○正答率 60%以上の生徒の割合は全国平均より 0.2 ポイント高い。</li> </ul>



以下の集計値／グラフは、4月18日に実施した調査の結果を集計した値である。

集計結果

分類	対象生徒数		平均正答率(%)	
	広島市(公立)	全国(公立)	広島市(公立)	全国(公立)
対象生徒数	8,848	938,887	20,886	938,887
区分	広島市(公立)	全国(公立)	広島市(公立)	全国(公立)
対数問題数(問)	16	59	60	59.8
全体				
数と式	5	63.0	63.2	63.8
図形	4	72.3	72.0	72.4
関数	3	37.8	40.6	40.8
資料の活用	4	56.8	57.6	56.3
評価の観点	0			
数学への関心・意欲・態度	8	50.6	51.8	51.0
数学的な見方や考え方	3	62.7	62.7	63.9
数学的な技能	5	70.4	70.7	71.3
数量や図形などについての知識・理解	5	59.6	60.2	60.3
選択式	5	65.3	65.5	66.6
短答式	7	47.5	49.2	47.1
記述式	4			

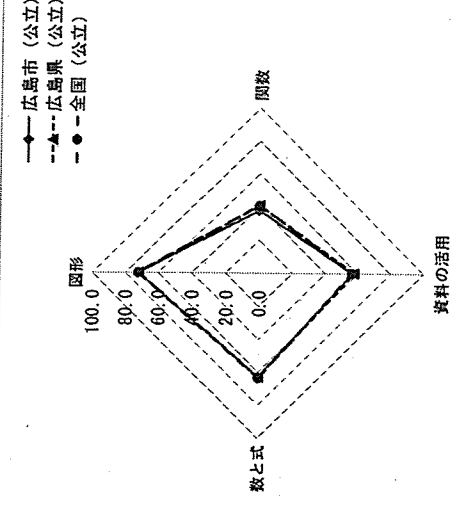
※一つの問題が複数の区分に該当する場合は、それぞれの区分について各区分の問題数を合計した数、実際の問題数とは一致しない場合がある。

問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域		評価の観点	問題形式	正答率(%)			無解答率(%)			
			数と式	図形			関数	資料の活用	広島市(公立)	広島県(公立)	全国(公立)	広島市(公立)	広島県(公立)
1	$a$ と $b$ が正の整数のとき、四則計算の結果が正の整数になるとは限らないものを選ぶ	数の集合と四則計算の可能性について理解している	1(1) 7		数の集合や図形などについての知識・理解			60.3	62.2	62.2	0.1	0.1	0.2
2	連立二元一次方程式 $\begin{cases} y = -2x + 1 \\ y = x - 5 \end{cases}$ を解くことができる	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	2(2) 9		数学的な技能			68.6	67.6	70.1	4.9	5.0	5.1
3	$\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める	平行移動の意味を理解している	1(1) 1		数学的な見方や考え方			83.5	82.4	83.6	0.6	0.6	0.7
4	反比例の表から式を求める	反比例の表から、 $x$ と $y$ の関係を式で表すことができる	1(1) 1	1(1) 1	数学への関心・意欲・態度			46.0	48.5	48.9	10.9	8.9	10.4
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも表の出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができる		2(1) 7				73.5	72.1	72.8	3.0	2.8	3.3
6(1)	冷蔵庫Aの使用年数と総費用の関係を表すグラフについて、点Pの座標と点Qの座標の差が表すものを選ぶ	グラフ上の点Pの座標と点Qの座標の差を、事象に即して解釈することができる		2(1) 1, 1, 1				36.3	37.5	38.8	0.4	0.3	0.3
6(2)	冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、式やグラフを用いて、2つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる		2(1) 1, 1				30.9	35.7	34.7	10.0	7.9	11.6
7(1)	証明で用いられている三角形の合同条件を書く	証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	2(2) 7					72.4	73.1	75.8	5.6	4.9	5.2
7(2)	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ	反例の意味を理解している	2(2) 1					78.2	77.3	77.2	0.5	0.4	0.5
7(3)	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF = CE$ になるかを説明する	結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる	2(2) 9					55.0	55.3	53.3	15.8	14.5	17.6
8(1)	読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める	資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる		1(1) 7				57.4	58.8	57.9	11.3	8.9	10.6
8(2)	「1日に26分ぐらいたんぱく質を摂る生徒が多い」という考えが適切ではない理由を、ヒストグラムの特徴を基に説明する	資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる		1(1) 1				43.0	45.2	40.8	19.2	16.9	21.3
8(3)	図書だよりの下書きに書かれているわかったこと、根拠となる値として適切なものを選ぶ	問題解決をするためにどのような代表値を用いるべきかを判断することができる		1(1) 1, 1				53.2	54.2	53.6	1.2	0.9	1.0
9(1)	説明をよみ、 $6n + 9$ を $3(2n + 3)$ に変形する理由を完成する	与えられた説明を振り返って考え、式変形の目的を捉えることができる	2(1) 1, 9					55.3	56.0	57.4	9.1	7.8	9.5
9(2)	連続する5つの奇数の和が中央の奇数の5倍になることの説明を完成する	事柄が成り立つ理由を説明することができる	2(1) 1, 9					61.0	60.7	59.7	15.6	15.3	17.8
9(3)	連続する4つの奇数の和が $4(2n + 4)$ で表されたとき、 $2n + 4$ はどんな数であるかを選ぶ	総合的・発展的に考察し、得られた数学的な結果を事象に即して解釈することができる	2(1) 1, 9					69.8	69.7	69.6	2.3	1.8	1.9

※過年度からの継続的な分析に資するため、参考として設けた。

＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞



中学校数学

6(2) 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。

6 健太さんの家では、冷蔵庫の購入を検討しています。健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて調べたことを、次のような表にまとめました。

健太さんが作った表

	冷蔵庫A	冷蔵庫B	冷蔵庫C
容量	400L	500L	500L
本体価格	80000円	100000円	150000円
1年間あたりの電気代	15000円	11000円	6500円

健太さんは、冷蔵庫A、冷蔵庫B、冷蔵庫Cについて、使用年数に応じた総費用を考えることにしました。そこで、それぞれの冷蔵庫において、1年間あたりの電気代は常に一定であるとし、次の式で総費用を求めることにしました。

$$(\text{総費用}) = (\text{本体価格}) + \left( \frac{\text{1年間あたりの電気代}}{\text{電気代}} \right) \times (\text{使用年数})$$

例えば、冷蔵庫Aを購入して3年間使用する時の総費用は、 $80000 + 15000 \times 3 = 125000$  となり、125000円です。

(2) 健太さんの家では、健太さんが作った表で、容量が500Lである冷蔵庫Bと冷蔵庫Cのどちらかを購入することになりました。そこで、健太さんとお姉さんは、冷蔵庫を購入してx年間使用するときの総費用をy円として、冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用を比べてみることにしました。

健太さん 「本体価格は冷蔵庫Cの方が高いので、最初のうちは冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が多いね。」  
お姉さん 「1年間あたりの電気代は冷蔵庫Cの方が安いので、使い続けると冷蔵庫Bより冷蔵庫Cの方が総費用が少なくなるね。」  
健太さん 「それなら、2つの冷蔵庫の総費用が等しくなるときがあるね。」

冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなるおよその使用年数を考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて冷蔵庫Bと冷蔵庫Cの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明しなさい。

- ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。  
ア それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表す式  
イ それぞれの冷蔵庫の使用年数と総費用の関係を表すグラフ

■学習指導要領における領域・内容

【第2学年】 C 関数

- (1) 具体的な事象の中から二つの数量を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、一次関数について理解するとともに、関数関係を見だし表現し考察する能力を養う。  
イ 一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて理解すること。  
エ 一次関数を用いて具体的な事象をとらえ説明すること。

■正答及び正答率等

正答例		正答率	誤答率	無答率
<アを選択した場合> ・ 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係から連立方程式をつくり、それを解いて使用年数の値を求める。 <イを選択した場合> ・ 冷蔵庫Bと冷蔵庫Cについて、使用年数と総費用の関係を一次関数のグラフに表して、その交点の座標を読み取り、使用年数の値を求める。	広島市	30.9%	59.1%	10.0%
	全国	34.7%	53.7%	11.6%

■主な誤答とその要因

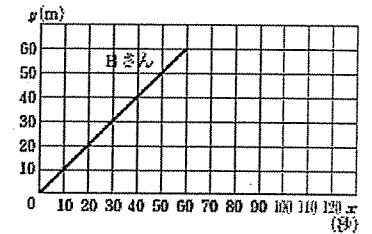
主な誤答	要因
$\begin{cases} y = 11000x + 100000 \\ y = 6500x + 150000 \end{cases}$ ・ グラフを使って調べる。	用いる方程式や、グラフを用いることは記述しているが、その用い方として、方程式を解くことや、交点の座標から読み取ることが表現することができなかった。

内容の系統と指導のポイント

中学校第1学年

比例、反比例を用いて具体的な事象を捉え考察し表現する。

考えてみよう  
下の図の動く歩道は、長さが60mで、毎秒0.5mの速さで動いています。Aさんが動く歩道に乗ると同時に、Bさんが、その橋を毎秒1mの速さで歩き始めました。Bさんは、Aさんより何秒前に歩道の終点に到着でしょうか。



問 Aさんの進むようすを表すグラフをかき入れ、Qの答えを求めなさい。

【関数】具体的な事象から取り出した二つの数量の関係が、比例であることを判断し、その変化や対応の特徴を捉え、自分なりに説明する。指導にあたっては、グラフからどのように読み取ったのかを説明しあう活動を取り入れる。

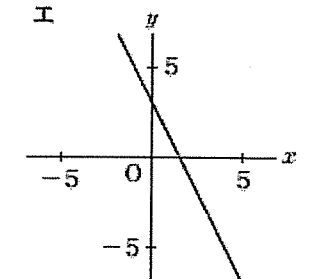
中学校第2学年

グラフの特徴について、表と関連付けて理解させる。

平成28年度全国学力・学習状況調査 A問題

10(1) 次の表は、ある一次関数について、xの値とそれに対応するyの値を表しています。

x	...	-1	0	1	2	3	...
y	...	5	3	1	-1	-3	...



この表のグラフとして正しいものを1つ選びなさい。

正答率 60.9% 誤答率 37.3% 無答率 1.8%

【関数】一次関数の表からグラフの傾きや切片を読み取り、その符号や絶対値によって直線のグラフの傾き具合や、y軸との交点の座標を判断する活動を取り入れる。

中学校第2学年

一次関数の意味を理解させる。

平成30年度全国学力・学習状況調査 A問題

12 1500mの道のりを歩きます。x m歩いたときの残りの道のりをy mとします。このとき、xとyの関係について、下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

- ア yはxに比例する。  
イ yはxに反比例する。  
ウ yはxの一次関数である。  
エ xとyの関係は、比例、反比例、一次関数のいずれでもない。  
正答率 30.2% 誤答率 68.8% 無答率 1.0%

【関数】具体的な事象の中から2つの数量を取り出し、それらの変化や対応の様子を調べることを通して、2つの数量の関係が一次関数であるかどうかを判断させる活動を取り入れる。

本設問を活用した学び直しの例

- 日常生活や社会の事象を、一次関数として捉え、説明するために
- 健太さんとお姉さんの会話から、ともなって変わる数量（使用年数と総費用）に注目する。
  - 「総費用が等しくなるとき」、式から考えるのか、グラフから考えるのか、自分の立場を明確にし、「それはなぜいえるのか」「なぜそのように判断できるのか」の視点で説明する。
  - ②で考えた方法で、実際に問題を解き、考え方を振り返ることで、式、グラフそれぞれの考え方のよさを実感する。



# 亀山中学校

H30～31 学力向上推進事業「個に応じた指導特別研究校」指定校

～ 授業改善・放課後等補充学習等を柱とした学力向上の取組 ～

## 1 授業改善の取組

本校では、「個に応じた指導特別研究校」の指定を受け、以下の研究仮説に基づいた数学科授業スタンダードを作成しました。教科書見開き1ページを1時間で学習することを想定し、授業の前半は基礎・基本の確実な定着を図り、授業の後半は、前半で学習したことをもとに、一人では解決できない学習課題にグループで取り組む時間としました。

また、家庭学習の課題は、家庭において、一人でできる学習課題を設定し、家庭学習の習慣を定着させるよう取り組んでいます。

「授業スタンダード」と「教科書1単位時間の学習内容の配列」の関係

教師の指導・行動	備考
<p>振り返り 5分以内</p> <p>振り返り問題 ・四則計算等、基礎 ・前時の内容の確認</p> <p>導入 3～7分程度</p> <p>生徒の興味・関心 ・既有経験や既習 ・数学が生かされる めあての提示</p> <p>基本パターン：「 めあてを達成し 分かるように設 問する」</p> <p>展開1 13～17分程度</p> <p>基礎・基本の確実 ・教科書の例題レ ・習得的な対話の ※「これはどう 言葉が生徒た ちから出てくる」 を重視する</p> <p>グループを活用し 「グループで解決 ：必ず確認を行 う」</p> <p>「みんなグループで解決できたようなので、次に移ります」 「解決できたというグループから、誰か前に出て説明してください」</p>	<p>2 連立方程式とグラフ</p> <p>2つの2元1次方程式のグラフの交点の座標について考えてみる</p> <p>展開1 基礎基本の確実な定着</p> <p>展開2 高い・深いレベルの課題</p> <p>基本の問題</p> <p>まとめや家庭学習等で定着</p>
<p>展開2 20～25分程度</p> <p>展開1を活用した高い・深いレベルの課題に挑戦 ・教科書の活用問題や全国学力・学習状況調査B問題等 ・グループ学習のあと、個人を指名し、言葉や式、図、グラフなどを用いて説明させる。 ・納得できない生徒がいる場合は、他の生徒たちが何回も説明を試みたり、再度グループで考えさせたりする。</p> <p>教師が選択</p>	<p>一人では解決できない学習課題に挑戦することにより、必然的に対話を促す。4人グループで対話ができるように、ホワイトボードや学習課題を拡大したプリント等を活用する。</p>
<p>まとめ 5分程度</p> <p>適応題等で確認 ・展開2で扱った学習課題より容易なものを扱い、基礎的・基本的な内容が理解できているか確認する。</p> <p>展開2の継続 ・展開2で、生徒たちが学習課題を解決できていないが、集中して取り組んでいる場合には、オープンエンドも可能とする。</p>	<p>生徒たちの学習状況により判断する。</p>
<p>家庭学習の課題</p> <p>生徒の学習状況を把握した上で、展開1と同程度など、基礎的・基本的な内容のものを示す。 ・次時の冒頭で確認することもできる。</p>	<p>家庭において、一人でできる学習課題を設定し、家庭学習の習慣の定着を図る。</p>

## 2 個別支援シートを活用した取組

亀山中学校区では、児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着状況を把握し、授業中や放課後等の補充学習等において的確な指導を行うため、個別支援シートを活用しています。このシートは、小・中学校の教員が協力し、学力の定着に課題が見られる児童生徒について、算数・数学の学習の、どの段階でつまづいているのかを、随時A～Cの3段階で記入します。

つまづきに応じた個別指導等を通じて、当該児童生徒の学力の定着に改善が見られた場合は、評価を修正し、継続的に活用しています。

亀山中学校区 小学校算数個別支援シート

小学校 名前					
第1学年 組	第2学年 組	第3学年 組	第4学年 組	第5学年 組	第6学年 組
式による表現 ・加法や減法の場面を式に表す	式による表現 ・加法と減法の相互関係 ・乗法の場面を式に表す	式による表現 ・除法の場面を式に表す ・式と図の関連付け、□などをを用いた式など	伴って変わる二つの数量の関係 ・数量の変化の様子を折れ線グラフにして関係調べる	簡単な比例の関係	比 比例と反比例
線や円を用いた数量の表現	簡単な表やグラフ	表や棒のグラフ	四則混合の式、( )を用いた式、公式 ・□、△などを用いた式	や調べ方 ・簡単な式で表されている二つの数量の関係調べる	(a, xなど)
			四則計算の性質 資料の分類整理 ・二つの観点の表、折れ線グラフ	百分率 円グラフや帯グラフ	資料の調べ方 ・資料の平均 ・度数分布 起こり得る場合

亀山中学校区 中学校数学個別支援シート

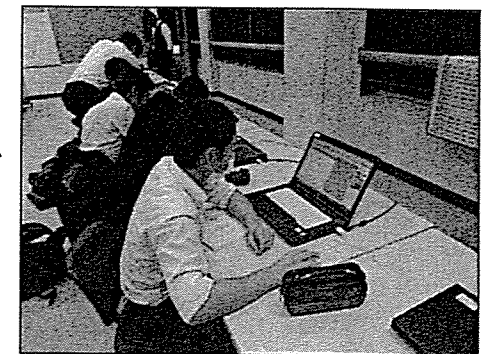
	第1学年 組	第2学年 組
C 関数	比例、反比例	一次関数
	A 関数関係の意味	A 事象と一次関数
	イ 比例、反比例の意味	イ 一次関数の表、式、グラフ
	ウ 座標の意味	ウ 二元一次方程式と関数
	エ 比例、反比例の表、式、グラフ	エ 一次関数を用いること
	オ 比例、反比例を用いること	

## 3 放課後等補充学習の取組

定期テストや確認テストにより、生徒たちの学習状況を細かく把握し、昼休憩や放課後を活用して補充学習を随時実施しています。

また、まちぐるみ「教育の絆」プロジェクト実施校として、原則、毎週水曜日に「絆」学習会を実施しています。この学習会では、インターネットによる学習支援システムを活用して、生徒自らが教科書の単元にあわせた項目やページ、さらに難易度などで問題を絞り込み、プリントを作成し、学習に励んでいます。

さらに、平成31年度からは、この学習支援システムの家庭配信版を導入し、生徒が家庭でも使用することができるようになりました。自宅でプリントを使用したり、解説動画を見たりしながら、生徒自らが復習や学び直しに活用しています。



抽出項目（経年変化）								
【児童・生徒質問紙】								
	質問事項	校種	H27	H28	H29	H30	H31 (R01)	特徴
(1) 学 習 意 欲	① 国語の勉強が好き	小学校	61.4	58.9	60.0	—	63.1(64.2)	中学校の国語について、肯定的回答をした生徒の割合は、全国平均と比較して1.1ポイント高いが、他の質問については、全国平均と比較して1.1～2.9ポイント低い状況である。 特に、中学校数学、英語について、肯定的回答をした生徒の割合は50%台にとどまっている。
		中学校	58.9	60.2	61.3	—	62.8(61.7)	
	② 算数・数学の勉強が好き	小学校	65.5	65.0	64.6	61.7	66.1(68.6)	
		中学校	58.2	59.2	56.2	55.3	55.6(57.9)	
	③ 英語の勉強が好き（新規）	小学校	—	—	—	—	—	
		中学校	—	—	—	—	53.1(56.0)	
(2) 自 尊 意 識	① 自分にはよいところがある	小学校	80.0	79.9	82.1	87.2	83.7(81.2)	①から④のいずれの質問についても、肯定的回答をした児童生徒の割合は、全国平均と比較して高い状況（0.4～3.1ポイント）である。
		中学校	73.9	76.3	76.6	83.2	77.2(74.1)	
	② 将来の夢や目標を持っている	小学校	87.8	87.8	87.7	87.8	86.0(83.8)	
		中学校	74.9	74.9	73.2	75.2	73.2(70.5)	
	③ 学校のきまり・規則を守っている	小学校	91.7	92.8	93.4	90.8	93.6(92.3)	
		中学校	96.2	96.7	96.1	96.4	97.0(96.2)	
	④ 人の役に立つ人間になりたいと思う	小学校	94.4	94.8	93.2	95.9	95.6(95.2)	
		中学校	95.1	94.0	93.1	96.1	95.0(94.3)	
(3) 思 考 力 ・ 表 現 力	① 授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている（新規）	小学校	—	—	—	—	83.3(82.8)	①から③のいずれの質問についても、肯定的回答をした児童生徒の割合は、全国平均と比較して高い状況（0.5～3.9ポイント）である。
		中学校	—	—	—	—	76.2(74.9)	
	② 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫した	小学校	—	—	—	62.3	64.5(62.5)	
		中学校	—	—	—	58.4	59.7(55.8)	
	③ 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	小学校	68.0	70.3	69.3	79.4	75.5(74.1)	
		中学校	66.5	69.9	69.1	80.0	76.5(72.8)	
(4) 学 習 意 欲	① 家で、自分で計画を立てて勉強している	小学校	60.8	62.2	61.5	67.5	70.3(71.5)	小学校については、②と③の質問に肯定的回答をした児童の割合は、全国平均と比較して、それぞれ0.7、1.5ポイント高いが、①の質問については、1.2ポイント低い状況である。 中学校については、①と③の質問に肯定的回答をした生徒の割合は、全国平均と比較してそれぞれ1.1、3.5ポイント高いが、②の質問については、2.2ポイント低い状況である。
		中学校	52.1	52.9	52.9	54.6	51.5(50.4)	
	② 学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の1日あたりの勉強時間（30分以上：塾・家庭教師等を含む）	小学校	88.3	89.4	89.0	91.5	90.9(90.2)	
		中学校	87.0	85.0	85.0	84.7	84.8(87.0)	
	③ 学校の授業時間以外の普段（月～金曜日）の1日あたりの読書時間（「全くしない」の回答以外：教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	小学校	80.7	79.0	79.4	81.7	82.8(81.3)	
		中学校	68.7	67.3	67.6	70.7	68.7(65.2)	
【学校質問紙】								
(5) 指 導 方 法	① 家庭学習の取組として、家庭での学習方法を、具体例を挙げながら教えている	小学校	91.5	92.2	86.6	94.4	96.5(95.5)	小学校については、①～③の質問に、肯定的回答をした学校の割合は、全国平均と比較して1.0～3.5ポイント高い状況である。 中学校については、①③④の質問に肯定的回答をした学校の割合は、全国平均と比較して1.4～4.6ポイント高いが、②の質問については4.6ポイント低い状況である。
		中学校	82.8	89.0	90.6	79.7	93.7(92.3)	
	② 国語の指導として、目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業をしている	小学校	94.3	93.6	92.3	—	95.1(94.1)	
		中学校	84.4	87.5	92.2	—	84.4(89.0)	
	③ 算数・数学の指導として、実生活における事象との関連を図った授業をしている	小学校	71.6	78.0	73.3	74.0	85.9(82.4)	
		中学校	62.5	76.6	73.4	61.0	81.2(78.1)	
	④ 生徒が英語に接する機会を増やし、教室を実際のコミュニケーションの場とする観点から、授業を英語で行っている（新規）	中学校	—	—	—	—	90.6(86.0)	

※ 表中の■は、全国平均を上回っている項目を示している

※ 表中「—」は、当該年調査で実施していない設問を示している

※表中、平成31年度（ ）は、全国平均を示している。